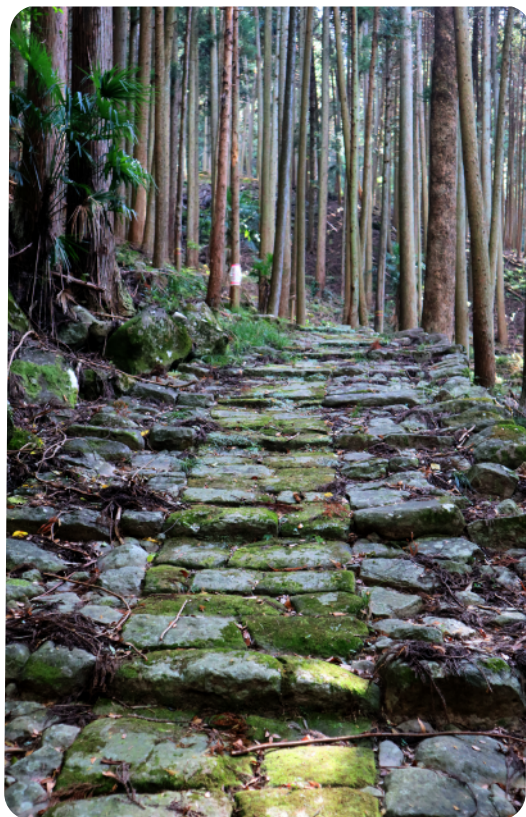


日田往還 「石坂石畳道」 ウォーキング大会



大分県指定史跡『石坂石畳道』

主催：石坂石畳道ウォーキング大会
実行委員会

後援：日田市教育委員会

★日田往還『石坂石畳道』と石坂修治碑★

日田往還は、かつて中津港から大阪方面に往き来する人が通ったり、中津・宇佐方面から塩や海産物など生活に必要な物資が運搬されたりする、重要な道路でした。

石坂は日田往還の最大の難所でした。その名の通りとがった石が多く、雨ともなると道がぬかるむため、通行する人や牛馬が転び、大きなケガを負ってしまうほどでした。

日田の掛屋（豪商）たちは道路や水路などの工事は行っていましたが、石坂の改修にとりかかる者はいませんでした。当時、石坂の入口のある市ノ瀬は天領ではなく、森藩領だったからです。

この石坂の改修に資金を出したのは、隈町の掛屋・山田常良（京屋作兵衛）です。山田常良は森藩に改修を願い出て、許されると周防国（今の山口県）から2人の石工を招いて、築造に当たりました。この工事には、世話人として財津町の熊谷庄蔵が協力しています。

工事完成の翌年の嘉永4年（1851年）には、工事の完成を記念して「石坂修治碑」が建てられました。この碑の建立を広瀬淡窓に求めたのは市ノ瀬の庄屋・梶原景履。淡窓が文を撰し、隈町の森昌明が書をしたためています。

「石坂修治碑」は石坂石畳道の中ほどにあり、石坂石畳道の由来を今に伝えています。



石坂修治碑

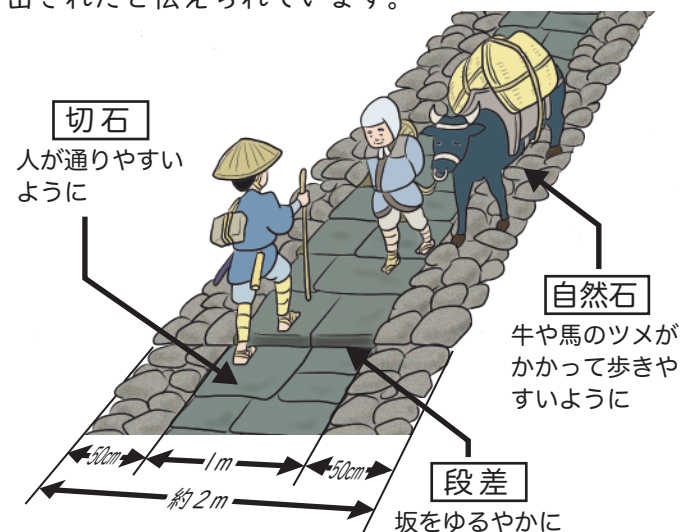
★『石坂石畳道』のつくり★

道幅はおよそ2m。中央は1mで平らな切石が、その両側は50cmで自然の石が敷き詰められています。

中央の切石は人が通りやすいように、両側の自然石は荷物を運ぶ牛や馬のツメがかかって歩きやすいようにしています。

また、坂が急なところには段差を設けて、坂をゆるやかにするように工夫されています。

中央部分の切石は、近くの穴倉（地名）から切り出されたと伝えられています。



このような石畳道とその由来を伝える碑文（石坂修治碑）が残されている例は、県内では他にありません。そのため、昭和62年（1987年）には大分県史跡の指定を受けました。

また、平成8年（1996年）には文化庁の「歴史の道百選」にも選ばれています。

そして今、国史跡の指定を目指しているのです。

日田往還「石坂石畳道」ウォーキング大会 MAP

★日田往還「石坂石畳道」

日田往還は江戸時代の街道です。
永山布政所（日田市丸山1丁目）
から宇佐郡四日市陣屋（宇佐市四
日市）を結んでいました。

「石坂石畳道」は日田往還の一部です。坂ノ下（秋原町）から坂の辻（伏木町）に至る坂道で、石畳が敷かれています。

その長さは1,260m、高低差は200m（標高200m～400m）。

16ヶ所で道を折り曲げ、坂をゆるやかにしています。

★ウォーキング大会のコース

スタートの花月ふれあい交流館から
ゴールの伏木公園までは約 2.2Km の道
のりです。その間 1,260m にわたって
石畳が続いています。

★石坂石畳道の道標（みちしるべ）

16ヶ所の折れ曲がりには石の道標が置かれています。



これは平成 23 年度
(2011 年度) に三和小学校児童が設置
したものです。

道標には、折れ曲がりの番号と登り口からの距離が記されています。

①85m ②168m ③272m

④306m ⑤580m ⑥610m

⑦680m ⑧700m ⑨730m

⑩780m ⑪810m

⑫860m (石坂修治碑) ⑬900m

⑭940m ⑮1004m ⑯1156m

